

①実施要項

目的：中高一貫教育の連携がスムーズに進むよう、今後どのような取り組みが必要か、また、これまでの取り組み、活動を通して意見交流し、共通認識を図る。

日時：平成22年7月5日（月） ・ 平成23年1月18日（火）

内容：全体会 能勢高校長あいさつ、中高一貫校視察報告

分科会 「NS授業について」 「生活指導（授業規律）について」
「クラブ活動について」「生徒間の交流について」
「中高一貫教育の課題について」（1月18日のみ）

②平成22年7月5日（月）各分科会のまとめ

NS授業について

現状報告・意見交換

① 昨年度の意見内容の確認。

② TT（NS授業）での取り組みの現状報告。

国語 西中＝学習に課題のある生徒への支援中心。打ち合わせの時間がとれていない。

東中＝通常の授業で4時間

能勢高校＝昨年と違って、高校の教師主導型でおこなう。

数学 西中＝中間テスト以降は、習熟度別の基礎・基本クラスに入り込み。

東中＝通常授業に入り込み。

能勢高校＝2クラス、3展開。TTで3クラスまんべんなく。教師が一人ふえてたいへん助かっている。

英語 西中＝打ち合わせの時間がほとんど取れておらず、TTならではの授業展開ができていない。

東中＝昨年度はNSの形がうまく活用できていたが、今年度は学習態度等の状況で考えると、厳しく習熟度別で展開している。

能勢高校＝打ち合わせ時間がうまくとれておらず、休み時間の短い時間で打ち合わせしている。

③ 意見交流

- ・授業規律の指導のラインが難しい。どこまで注意していいのか、間合いの取り方も考える。
- ・想像していたものと実際のものではギャップが激しい。選択授業ではないので特別なことをやりにくい。打ち合わせの時間も満足にできていない。今の状況では生徒たちにプラスになっているとは考えられない。
- ・教科としての特性もあり、うまく運用できる教科もあるが、そうでない教科もあり、3教科ともTTにしてしまったのが本当によかったのだろうか。

具体的な取り組み案

- ・授業規律面で効果をあげるために、子どもの状況に応じた指導を考えていく。
- ・高校の習い方を先取りして学べる。また、中学校のときのやり方が子どもたちにとっても安心のようである。打ち合わせの時間がしっかりとれるとうまくいく。時間割に工夫する。
- ・基本に忠実に指導する方が良いと考える。
- ・NSは中高一貫の核だから、がんばって取り組みを進める。そのためにも、打ち合わせの時間を授業の後に作り出す工夫を。

生活指導（授業規律）

現状報告・意見交換

○各校の現状・対策・取り組み

西中：

- ・ 学年が上がるにつれて落ち着きがなくなっている。
- ・ 授業への遅刻、忘れ物やルールを破る生徒が目立ち、授業中の徘徊、エスケープする生徒も数名いる。
- ・ 3年生でユニット制を導入。
- ・ 問題のある生徒に関しては良いことも問題のあることも含め、定期的に連絡をして、保護者との信頼関係を築いている。

東中：

- ・ 授業は落ち着いている時とそうでない時の差が激しい。
- ・ 服装の乱れが目立ってきている。
- ・ 教師全員の意思一致をはかり、徹底していくことが課題である。

能勢高

- ・ 遅刻、服装や頭髮に関しては厳しく指導している。教師の基準の統一もとれている。
- ・ 学年によっては、授業に遅刻する回数が例年に比べて3～4倍になっている。
- ・ 非行に関しての指導を行なう際、保護者に連絡し話をしたが、理解を得るのが難しい。

具体的な取り組み案

- ・ 生徒が学校のルールを守るようにするため、再度教師間の指導の基準を確認し徹底していく。
- ・ どんな対策を講じているのかなどについても、引き続きこまめに情報を交換する必要がある。

進路指導について

意見交換

<能勢高校から>

- ・ 論文選抜のため、中学生が「勉強しなくてもいける」と思ってしまうのではないのか？

<東・西中学校から>

- ・ 受験するまでで、悩んでいる生徒はいるが、見るからに学習意欲が低下しているという印象はない。
- ・ 論文の対策にすごく時間をかけている。教科の選抜よりも論文の方が、より高度な能力の定着を求められる。このため、漢字や計算などの基礎的学力をつける十分な時間がない。
- ・ 論文選抜のおかげで、表現力を身につけさせることができ、これこそこれからの社会に本当に必要な力である。しかし、そのことが現実として課題があるのなら、小・中学校で再度学力をつけるという面を見直すべきではないのか。

<能勢高校から>

- ・ 確かに、能勢校生は基礎学力は低いですが、論文を書く力に長けている。しかし、就職や進学を考えたとき、基礎的な計算や漢字の能力がないと困る。そこが、中高一貫選抜の課題なのではないだろうか。

○その他全体を通しての意見

<能勢高校から>

- ・ 能勢高校では、大学などの合格が決まったあとも補習などをして進学した際の学力保障にも力を入れて取り組んでいる。ただ、高校入試の面接のときの緊張感が以前に比べると薄くなってきている。これは入試の形態が影響しているのではないのか。
- ・ 実際、今の生徒に話を聞くと、「能勢高校に行くから勉強しなかった」という生徒もいる。しかし、入って意識を切り替えて努力して勉強するようになる生徒もおり、そういった生徒がもつ

と増えたら…と感じる。

<東・西中学校から>

- ・ 本本当に指導がしんどい生徒たちが能勢高校に入ったあとも諦めずに無事に卒業してほしい。一部の進学実績だけではなくて、そういった生徒たちがどのような力を身につけられたのか、という情報も知らせてほしい。意欲のある生徒ばかりを送れるわけではない。そうしたしんどい生徒たちにとって、基礎学力がないと言われても難しい面がある。
- ・ 能勢に行かない生徒は勉強に火が点くのが早い、能勢に行く生徒はやはり「しなくてもいける」という考えがあり温度差がある。
- ・ 中学校でも学力保障はしている。総合学科になって入試制度が変わったことによって、以前に比べて本当に学力が落ちたのだろうか。それほど変わらないのではないか。子どもたちの学力に入試選抜は関係ないのではないだろうか。
- ・ 入試ではなくて、教育課程が変わったことで授業時数が減ったことも学力低下の原因の一つではないだろうか。

結び

論文による選抜にも利点・難点があると示された。基礎学力は必要だが、論文選抜によって得られる力も重要であり、最終的に生徒にどのような力を身につけさせたいかを考えていくべきである。

生徒間の交流

現状報告・意見交換

- ① 中高生徒間の交流の現状は
 - ・ 能勢高校の文化祭（小中高の合同企画をしている）
 - ・ 両中学校からの模擬店の出店
 - ・ 体験入学
 - ・ 先輩の話を聞く会。
 - ・ 家庭科（羊毛を使ったフェルトづくりで小学生、中学生の参加を呼びかける。）
 - ・ 保健委員会（いっしょに調理実習をしたり地域のお年寄りとの昼食会に参加）
 - ・ クラブ活動の交流はあまりできていない。
- ② 中高生徒間の交流のメリットは
 - ・ 高校生が自信をもてる。
 - ・ 模擬店などは中学生の頑張りが収益につながるのでやりがいがある。
 - ・ 先輩の話を聞く会は効果的である。
- ③ 能勢高校文化祭への中学校の参加の仕方の工夫について、また中学校の行事への高校生の参加について。
 - ・ 時間的には中学校の体育大会と重なり、時間的には厳しいが生徒の手間が少しかかったものにした。
 - ・ 西中の吹奏楽部に能勢高校の文化祭で演奏してもらうことも可能。
 - ・ 西中の文化祭で高校生があいさつしたり、軽音部が発表するのも可。

具体的な取り組み案

- ・ 今年度は東西中学生が高校の文化祭にきて、達成感を持てるものにしていく。
- ・ 文化祭の開会式に西中の吹奏楽部が参加できるように。
- ・ 西中の文化発表への参加（例①生徒会からのあいさつ ②軽音の発表 ③能勢高校の文化祭で掲示されたものの一部を展示）
- ・ 東中の人権意見発表会への参加や体育大会への参加など。

③平成 23 年 1 月 18 日（火）各分科会のまとめ

NS 授業について

現状報告・意見交流

◎NS 授業について

国語 西中＝変わっていない。時間割の変更に伴いTTしていただくクラスが変更。

東中＝2 学期前半は習熟度別、後半は進路別に展開。4 展開

能勢高校＝1 学期から特に変わった点はなし。

- ・西中と東中でカリキュラムが違っている。
- ・年度ごとに選択授業数が減っている。東中は論文指導の関係で国語が最後まで残る。

数学 西中＝少人数のクラスにTT。生徒交流的な会話はするが打ち合わせの時間はとれていない。

東中＝通常授業への入り込み。生徒とのかかわりがうまくいくようにやっているといい。

能勢高校＝学力的にしんどいクラスへの入り込みに固定。打ち合わせの時間はとれていない。

- ・生徒のようすが細かく聞ける。
- ・生徒に声をかけていくうちに質問してくれる生徒が増えた。

英語 西中＝基本コースの補助。こどもたちのかかわりも上々。打ち合わせはほとんどできていない。

能勢高校＝2 クラス分割。問題演習のサポート。入り込み時に声をかけると、会話になって、それが私語につながる場合もある。静かな授業の中でも質問できるよう授業規律をしっかりおこなう。

具体的なとりくみ案

☆TTをするのに打ち合わせの時間がとれない（朝の打ち合わせ、HR等があり、教科担当が担任を持っていると厳しい状況。

☆TTではなく「入り込み」という形であれば打ち合わせはなくてだいじょうぶ。

打ち合わせの時間については時間割を組む段階で配慮すべき。

☆他の教科のNSというのはどうか

- ・カリキュラムの変更に伴い、中高のつながりを「総合の時間」等で持つこともあり。
- ・仕組み自体を考え直してはどうか。系列の学習等でのつながりも考えてみたらいいのではないか。

☆生徒の状況の把握に力をそそいでいく。能勢高校に来る教師にもよるが生徒を理解するのにたいへんよかったと思う。

☆中学校の学習内容や学習状況を知ることにつながるのだから高校になってからの授業に役に立っている。

生活指導（授業規律）

現状報告・意見交換

[能勢高]

- ・クラスの中に落ち着きのない生徒がいると、周りに波及して学級全体がザワザワしてくる。
- ・生徒の考えが幼いので、指導がなかなか入らないことがある。
- ・携帯のメール、ブログ等のトラブルがある。
- ・校内で喫煙の形跡を見かけることがある。
- ・遅刻はなかなか減らない。3 年生も例外ではない。

[西中]

- ・年度当初に比べ、全体として落ち着いてきている。ただ、一部の生徒は授業を抜け出すことがある。
- ・授業に対するエスケープはかなり減っている。
- ・お菓子や喫煙の形跡を目にすることがある。
- ・複数の生徒を同時に指導する時にそれぞれが話を聞けない。個人的には聞ける。

- ・保護者に対しては、些細なことでも連絡をとり、協力を仰いでいる。
- ・全ての教科において、授業開始の5分間を、生徒の興味関心を持つような時間に使う。
- ・活動は4人班で行う。

[東中]

- ・授業中に騒いだり立ち歩いたりという行動はあまり見られない。チャイム着席や私語禁止などに関する基本的なことはその都度指導を入れている。
- ・指導には素直に応じる。
- ・教師全体で生徒指導を行っていかなければならない。

《携帯電話の取り扱いについて》

[能勢高]

敷地内持ち込み可。使用不可、電源 OFF。授業中の使用発覚の場合は没収。

[西中・東中]

持ち込み不可。必要な場合（保護者からの申請があった場合）は職員室で保管。下校時に返却。

《その他》

[能勢高]

進路指導より、進路未定者を減らしたい。授業や勉強に向かう習慣を身につけないといけない。

進路指導について

意見交換

<能勢高校から>

◎ H23年度新入生への春休み課題を、

① 従来の3教科から5教科に増やす

② 従来、合格者登校日(3/12)に渡していたが、早めて合格発表日(3/2)に渡す

*ねらい；前期入試合格発表後、能勢高校に合格した生徒にも継続的に学習させること

「5教科の課題の扱いについて中学でどのようなこと(指導・小テスト等)ができるか。」

(以下、中学側より出た意見)

- ・合格発表日(3/2)から中学の卒業式(3/11)までのわずかな期間で、課題のすべてを完成させることはできない
- ・前期合格発表後の授業の中で、持参させて自習させることならできる
- ・課題を与えられたことに対する一定の指導はしようと思うが、授業時間外に指導する時間を確保するのは難しい。
- ・後期入試を受ける生徒の指導に時間をかけることになるので、中学で課題についての小テストを実施するのは難しい
- ・課題の難易度が高い。「自分でできない」生徒が多いと思うので、もっと基礎的な問題にしてはどうか

・中学の卒業式(3/11)後の後期入試受験者の勉強会に来させて質問に答えることは可能
「各課題の解答を生徒に渡すかどうか。またその時期。代金の徴収についての意見はどうか。」

(以下、中学側より出た意見)

- ・解答がないと手がつけられない教科もあると思う
- ・課題の量が多いことを考えると、解答はあったほうが良い
- ・代金の徴収については、扱い者を一元化するほうが良いので、高校でまとめてほしい

具体的な取り組み案

「能勢高校合格後も継続的に学習させるためにできること。」

(以下、分科会としての確認)

- ・高校は、合格者登校日(3/12)や合格者に対する指示事項のプリントを通じて、「課題提出」と「課題考査」が各教科の成績評価や、習熟度別クラス編成資料になるということの連絡を徹底する

- ・ 中学は、質問のある生徒は中学の卒業式（3／11）後の後期入試受験者の勉強会に来るように働きかけて、指導を継続する

生徒間の交流

中高生徒間の交流の現状

- ・ 体育大会について
 - （東）土曜日なので（高）生徒会役員が（東）の生徒会種目に参加
 - （高）も（西）も平日なので、参加は難しい
- ・ 能勢高校の文化祭参加について
 - （西）吹奏楽部は早い時間から来校、1曲だったが演奏してくれてよかった
 - （両）生徒会（模擬店）・・・中高どちらも店番で交流はできていない
- ・ 体験入学について
 - （両）3年生1回・（西）2年生1回
- ・ 先輩の話を聞く会について
 - （両）3年生1回 進路学習の意識づけができる
 - （高）が4系列への説明を（西）2年生を対象にしてくれた
- ・ クラブ交流について：あまりできていないので次年度は交流したい
 - （東）は野球部が（高）に来たりしている
 - （高）野球・バスケ・硬式テニス・空手・柔道・ラグビー・サッカー・バドミントン
- ・ 三校の保健委員会の交流について
 - 今年度調理実習などできていない
- ・ 三校の家庭科の羊毛を使ったフェルトづくりはできた
- ・ 西中校区地域協のさわやかフェスティバルには（高）の軽音楽がここ数年は参加してくれている
- ・ （高）のサイエンスキャンプを（両）中学校で発表した

具体的なとりくみ案

- ・ 能勢高校の文化祭参加について
 - （両）中学校の参加はするが高校生との交流はできていないので、生徒の交流ができる体制を考えていく
 - 生徒会同士で一緒にイベントできないか考える
- ・ （高）の農業クラブ（教科のクラブ）など生徒との交流はできないものか、設定をしていかなければやりにくい、年間計画を立てるときに調整してみる
- ・ （高）への体験入学で、空手部の発表などしてみてもどうか
- ・ SNS（土曜西スペシャル）の学習会に（高）に参加してもらったらどうか
- ・ クラブの交流について
 - 平日は厳しいので、土日・夏休みなど1、2回程度交流

中高一貫教育の課題について

中高一貫教育の課題について話しあうことについて、いくつかのテーマに分けて意見を述べてもらった。（NS授業について）

- ・ 中学校の教師が、高校へ行き授業を行い、高校の教師が中学校へ来て、授業を行う。その中で、高校生からすると今まで教えてもらっていた中学校の先生が来てくれる事への安心感があり、中学生からすると、高校へ入学するまでの準備が出来る。

（クラブについて）

- ・ 課題はあるが、高校との合同での練習や機会を増やしていけないものか。
- ・ 小・中・高の全部が参加できるような、能勢町全域での駅伝大会のようなものを企画してはどうか。

(中高一貫教育の未来への展望)

- ・中・高合同での行事をもっとできたらいいのでは。それによって生徒と教師が交流し、高校の魅力向上につながるのでは？
 - ・中学生の気持ちはどうなのかをアンケートをとったりしてみてもどうか。
 - ・高校の定員割れをなくす方法は授業紹介とクラブ部見学以外に何かないか。
 - ・中学生が能勢高で授業をうける機会を設けてはどうか。
 - ・能勢高の今年度の重点キーワード「社会人基礎力」が、西中のイノベーションプロジェクトの「自信を持って踏み出すこともたちに・・・」と課題意識が似ているので、「社会人基礎力」という課題でつないではどうか。
 - ・中学校の人権文化発表会に能勢高の生徒が参加してはどうか。(軽音楽部などの文科系クラブなど)
 - ・小中高一貫高をつくる。
 - ・全国に例のない小規模だからできる特色を生かした学校づくり里山の利用などしてはどうか。
 - ・小・中・高を含めてみんなで色んな学校へ行って勉強するのはどうか。(地域学習など)
 - ・卒業生が、今後の能勢町を変えていくことに期待する。
 - ・6年かけて行う「教育目標」と「行う内容」の決定をしてはどうか。現在のシラバスは形式的なものになっている。
 - ・能勢小・中・高の児童・生徒による駅伝をしてはどうか。(田尻から天王まで)
 - ・能勢を好きな学生を育てる。
 - ・地域への自尊感情を高める。
 - ・能勢だからこそできることを幅広くシェアしている。
 - ・能勢高の先生に来ていただき進路説明会をしていただく。(生徒の学習意欲向上につながるのではないか。) →現在、実施している。
 - ・天体望遠鏡を能勢高に設置し大阪のてっぺんで宇宙に近づく。
 - ・生徒の個別プロフィールなどを能勢の小・中・高まで共通化し、生徒一人一人をより深く見ていけるようにする。
 - ・小・中・高の12年間での教育課程をつくる。(より地域に根ざした教育を目指す。)
- (今の中高一貫教育についての課題)
- ・連携について、中学校の思いと高校の思いは一致しているのか。
 - ・地元で高校がなくなってしまうでもいいのか。地域住民の意識の確認。
 - ・幅広い層の受け入れは良いが、遠方からの生徒の受け入れは違うのではないか。
 - ・中・高での情報交換がもう少し進んでほしい。
 - ・高校入学生の学力差が大きく指導しにくい。
 - ・地元離れする保護者への対応。
 - ・連携したくても時間・予算の制約がある。
 - ・中高一貫の中味を生徒や保護者は理解しているのか。
 - ・中学校側の課題として能勢高で何をしたいか目的をしっかりとめさせて入学、進学に臨ませたい。
 - ・できる事をしているだけでやらなければならない事をしているように見えない。
 - ・中学校の進路指導について西・東の中学校である程度連携はできているのか。

さまざまな意見が出てきたなかで、これからも続けていくべき良い所や、改善していくべき課題たくさんできました。これらを小・中・高のそれぞれで踏まえてゆき、より一貫教育を新たなものに進めていければ良いのではないのでしょうか。